

令和4年度

田園自然再生活動

の集い

「棚田の魅力」再発見
- 持続可能な田園自然再生活動のヒントを探して -

参加無料

長い歴史の中で、暮らす人々、
自然、営みにより育まれた農村環境は、
時代を越えた普遍的な価値そして魅力にあふれています。
人口減少社会の到来を迎え、
多様化が進む棚田地域の取組に注目し、
田園自然の再生活動を持続的に
展開するヒントを探ります。

2022年12月7日(水)13:00～16:30 (受付開始:12:30)

会場：東京大学 弥生講堂 一条ホール (WEB 配信併用)

【東京都文京区弥生 1-1-1】

主催

(一社) 地域環境資源センター
田園自然再生活動協議会

後援

農林水産省、環境省、
全国農村振興技術連盟、(公社) 農業農村工学会、農村計画学会
棚田学会、(一財) 日本グラウンドワーク協会

ごあいさつ



農村地域は、人間にとって生きる基本である「食」を支えるとともに、多くの生きものを育み、自然環境を保全し、文化を形づくるなど、人間に癒しと活力を与える空間として、極めて重要な役割を果たしています。

魅力ある農村づくりのためには、農業の振興と農業・農村の持つ多面的機能を十分に発揮することが必要であり、農家のみなさんと地域住民、NPOなど様々な方が連携して、地域が主体となった自然環境保全・再生のための取り組みを進めていくことが大切です。

この地域が一体となって取り組む「田園自然再生活動」は、多くの方々の理解のもと、一人でも多くの方に参加していただき、一過性ではなく末永く続く着実な活動である必要があります。

(一社) 地域環境資源センターでは、田園自然再生活動協議会とともに、こうした田園自然再生活動の継続、充実や拡大を図ることを目指し、平成27年度より「田園自然再生活動の集い」を実施しております。

7回目の開催となる今年度は、『「棚田の魅力」再発見ー持続可能な田園自然再生活動のヒントを探してー』をテーマに、人口減少社会の到来を迎え、多様化が進む棚田地域の取組に注目し、持続的な田園自然再生活動のあり方や今後の展開について考えていきます。

本日、この「田園自然再生活動の集い」を通じて、全国各地で取り組まれている自然環境保全・再生活動がますます盛んになることを祈念いたします。

令和4年12月7日

一般社団法人 地域環境資源センター
理事長 林田 直樹

プログラム



令和4年度 田園自然再生活動の集い

13:00 開 会

13:00 主催者挨拶 中村 桂子 (田園自然再生活動協議会 会長)

13:05 来賓挨拶 青山 健治 (農林水産省農村振興局整備部長)

13:10 来賓挨拶 堀上 勝 (環境省自然環境局自然環境計画課長)

13:20 講 演 坂田 寧代 (新潟大学農学部 准教授)
「山古志のむらづくりにみる
持続可能な田園自然再生活動に関する示唆」

14:10 — <休 憩> —

14:30 活動発表 ○田口 讓 (NPO 法人恵那市坂折棚田保存会)
○水柿 大地 (NPO 法人英田上山棚田団)
○新井 沙織 (NPO 法人越後妻有里山協働機構)

15:05 パネルディスカッション

コーディネーター： 荘林 幹太郎 (学習院女子大学 副学長)
コメンテーター： 中村 桂子 (田園自然再生活動協議会 会長)
坂田 寧代 (新潟大学農学部 准教授)
林田 直樹 (地域環境資源センター 理事長)
パネリスト： 田口 讓 (NPO 法人恵那市坂折棚田保存会)
水柿 大地 (NPO 法人英田上山棚田団)
新井 沙織 (NPO 法人越後妻有里山協働機構)
石塚 康太 (NPO 法人越後妻有里山協働機構)

16:25 閉会挨拶 林田 直樹 (地域環境資源センター 理事長)

16:30 閉 会

出演者紹介



坂田 寧代
新潟大学農学部
准教授

長崎県出身。専門は地域環境工学、農村計画学。

2004年新潟県中越地震を契機に2012年に石川県立大学から新潟大学に移る。それまで養鯉池の復旧や立地変遷と水利用技術をみてきたが、移ってからは地域の復興・振興に着目している。牛の角突き（闘牛）のオーナー（牛持ち）となり、2021年春から山古志に移住中。また、地震で水没した木籠集落で都市住民とともに楽しむ山古志木籠ふるさと会に2013年に入り伝統行事などに参加してきた。

主な論文：農村伝承文化を通じた災害復興における社会集団の編成—2004年新潟県中越地震を事例として—、都市住民と協働した農村地域における災害復興モデル—2004年新潟県中越地震を契機とした山古志木籠ふるさと会を事例として—、コロナ禍に山古志への移住で考えた農業農村整備

著書：『農村地域計画学』の分担執筆（第14章 農村定住と生活拠点）（朝倉書店）



荘林 幹太郎
学習院女子大学 副学長

兵庫県出身。専門は農業政策、農業貿易と環境。

1982年農林水産省入省、世界銀行南アジア3局、農林水産省構造改善局、OECD食料農業水産局、滋賀県農政水産部、農林水産省農村振興局等、2007年学習院女子大学教授、2017年より現職。

著書：『日本の農業環境政策—持続的な美しい農業・農村を目指して』（農林統計協会）、『世界の農業環境政策—先進諸国の実態と分析枠組みの提案』（農林統計協会）、『農業直接支払いの概念と政策設計—我が国農政の目的に応じた直接支払い政策の確立に向けて』（農林統計協会）他。



中村 桂子
田園自然再生活動協議会 会長

東京都出身。理学博士。生命誌の提唱者。

三菱化成生命科学研究所、早稲田大学人間科学部教授、大阪大学連携大学院教授などを歴任。

2003年～2011年3月まで（社）農村環境整備センター（現 地域環境資源センター）理事長に就任。現在、JT生命誌研究館名誉館長、田園自然再生活動協議会会長など。

著書：『自己創出する生命』（ちくま学芸文庫）、『生命科学から生命誌へ』（小学館）、『ゲノムが語る生命—新しい知の創出』（集英社新書）、『科学者が人間であること』（岩波新書）、『小さき生きものたちの国』（青土社）他多数。2015年にはドキュメンタリー映画「水と風と生きもの」中村桂子・生命誌を紡ぐが全国各地で上映された。



林田 直樹
（一社）地域環境資源センター
理事長

福井県出身。専門は農業工学。

1977年農林水産省入省（構造改善局設計課）、在フィリピン日本国大使館、富山県農地林務部、中国四国農政局建設部設計課、関東農政局次長、大臣官房審議官（国際）、農村振興局次長を経て2013年農水省退官。また、全国農村振興技術連盟委員長、（公社）農業農村工学会副会長、日本ICID協会会長などを歴任し、2022年より現職。

農業・農村振興の発展に尽力し、農業土木技術者の育成にも努めている。

活動団体の紹介



田口 譲

NPO 法人 ^{さかおり} 恵那市坂折棚田保存会（岐阜県恵那市）

優れた石積み景観の坂折棚田の保全と自然豊かな里山の保全に取り組んでいる。

棚田オーナー制度や棚田トラストなど都市住民の参加を促し、地域住民との共同作業による棚田地域の農業の継続を通じて棚田の保全を図り、各種の交流事業やボランティア活動による里山の環境保全を進めている。遊休農地や今後耕作放棄されることが予想される農地を活用し、最近高まっている社会的な自然回帰、農村回帰に呼応し、都市住民との交流を深め、体験から半定住、定住に繋げ、地域の活性化を図っている。

1999年に農林水産省の「日本の棚田百選」に認定、2003年には第9回全国棚田サミットの開催地となった。



水柿 大地

NPO 法人 ^{あいだ うえやま} 英田上山棚田団（岡山県美作市）

岡山県美作市上山地区の棚田の再生をはじめとする農林業の振興、自然エネルギーの活用や水資源の確保による里山の環境の保全に取り組んでいる。

地元の資源を活用した農林業体験やツリーイング、古民家を利用したカフェや民宿、陶芸などの各種のワークショップ、棚田を使ったコンサートなどのイベントの開催など新しいコンテンツの提供を行っている。これらの事業に農山村と都市部の人々を結びつけることで地域の活性化を図っている。

また、上山での成功事例を出版物やTwitter、Facebookなどのウェブツールで積極的に情報発信し、同様の問題に取り組んでいる他の地域とも連携していくことで、日本の農山村の明るい未来を切り開くことを目的としている。



新井 沙織

NPO 法人 ^{えちご つまり} 越後妻有里山協働機構（新潟県十日町市）

越後妻有地域の潜在的な魅力を、「大地の芸術祭」を中心とした文化・芸術の力と地域・世代・ジャンルを超えた人々の志と協働によって育て、地域のアイデンティティの確立、雇用の創出、里山の保全を図っている。

地元出身者や県内外からの移住スタッフで構成され、3年に1度の芸術祭、合間2年間の作品メンテナンス、企画展・イベント・ワークショップの開催、農業、ツアーの実施、グッズやお米の販売、食宿泊施設運営、それら全ての広報や誘客促進を主な業務とし、地元の方々や作家、こへび隊、地元サポーターの皆さんに助けられながら従事している。